

## テクノアカデミー浜 令和5年度産業人材育成推進協議会 議事録

日 時： 令和6年2月16日（金）13:30～15:00

場 所： 福島県立テクノアカデミー浜 101教室

出席者所属：

南相馬ロボット産業協議会

福島県自動車整備振興会

福島県建設業協会

株式会社ゆめサポート南相馬

原町商工会議所

相馬商工会議所

福島県立小高産業技術高等学校

南相馬市商工観光部商工労政課

相馬市産業部商工観光課

相双公共職業安定所

相双地方振興局

テクノアカデミー浜

### 議 事

#### ○テクノアカデミー浜校長（座長）

議事に入ります。

（1）産業人材支援に向けた取組について、及び（2）テクノアカデミー浜職員能力開発実施計画（地域貢献プラン）の進捗状況について、事務局より一括して説明させていただきます。

#### ○テクノアカデミー浜教務課長

（別紙資料2に基づき説明）

#### ○テクノアカデミー浜校長（座長）

今の説明に対し、御質問があればお伺いします。いかがでしょうか。

（発言者なし）

#### ○テクノアカデミー浜校長（座長）

次に、（3）質疑に入ります。

事前をお願いしていた質問事項について、コメントをいただければと思います。

初めに、南相馬ロボット産業協議会様、学卒訓練に係ること、特にロボット・環境エネルギー学科と機械技術科、製造関係学科に期待すること、また、業界の状況などを教えていただければと思います。

### ○南相馬ロボット産業協議会

施設見学で見せていただいた設備等について、ぜひPR願いたい。

実際に就職したとき実用的になる内容ばかりであり、とてもよい傾向と思う。

在職者訓練でも、製造業の若手を対象とした合同新入社員研修を実施していただき、大変お世話になっている。

テクノセミナー(在職者訓練)は決められた期間で選択できる内容が示されており、よいと思うが、企業の都合で申し上げれば、計測機器類の操作は新入社員が入る4月頃に開催してほしい。現在7月開催となっており、受講させたい思いはある企業はタイミングのずれを感じる。

業界ごとに推しているものがあると思うので、金属加工企業向け合同新入社員研修のような(オーダーメイド型)テクノセミナー開催を手厚くしてほしい。

金属加工企業向け合同新入社員研修は好評であることから、横展開ができればなおよいと思う。

### ○テクノアカデミー浜校長(座長)

テクノセミナーは郡山校と会津校でも実施しているが、本校の成績が1番悪い。

今後は、オーダーメイド型に力を入れて、御意見のような成功事例の横展開をしつつ、業界の動向を把握し、できる限り対応できるようにしたいと思う。

なお、受講人数が多い場合は、外部講師を招へいできるが、(少ない場合は)自前の職業訓練指導員で対応する必要があります。学卒者訓練との掛け持ちもあり、すり合わせ・調整が大変な部分もありますが、皆様のために一肌脱いでもらえるよう説明していく。

### ○福島県自動車整備振興会

自動車は基本的に変わっていない。

「走る」「曲がる」「とまる」三要素は基本的に変わっておらず、一部が電気化・電子化されている。タイヤだって全然変わらない。

製造工場で作られる製品は性能がどんどん上がっていくが、振興会内ではヒューマンエラーが多い。生徒たちにまず覚えてもらいたいことは、シンプルだが工具の基本的な使い方、機械の基本的な取り扱い方。そして最も大事なのはコミュニケーション能力。例えば何か故障を見つけて発表するときや新しいものを発表するとき、グループをつくって必ず順繰りにチームリーダーを変えて、人前で発表させている。企業で問題となっているのは、整備士のコミュニケーション能力低下。さらに悪いのは、整備難民が徐々に増えていることである。

数年前にユーザー車検が流行したが、国土交通省東北運輸局の福島運輸支局に聞くと、持込み車検はほとんど無くなっており、ガソリンスタンドで実施していた1日車

検も無くなっている。要するに割に合わなくなったということ。結果的には整備工場へ行くことになるが、いま世の中を騒がせているさまざまな問題で、車検という一番大事なものに手がつかない状態が生じている。

整備士を目指す学生たちには、丁寧な作業実施をしっかりと教えていただきたい。技術が変わり機械が担う部分は増えていくが、最終的に判断するのは人間。作業に対してお客様や技術者同士でコミュニケーションを図れるようにしてほしい。

例えば、落語家を呼んで話し方のコツ、「自信を持って意見を伝えるときには、こうなんですよ」ということを整備士になる学生へ教えることがあってよいと思う。

数年前に自動車整備科の先生にお願いした巻上機の操作講習について、カリキュラムの期間内に時間を確保していただき、メーカーやディーラーは物凄く喜んでいる。整備士免許以外にも業務資格を取得していただけることが非常にありがたい時代になっている。

産業用ロボットのAI化、無人化が進んだとき、これらの機械をメンテナンスする作業は（自動車整備と）一緒である。工具の使い方やライセンスの取得方法など、難しくない範囲で結構なので、基本的なことを学生たちに教えてほしい。

新しい製品を取り扱う場合、国のほうで「新しい研修を受けてください」「新しいライセンスを取得してください」と事業所へ特定整備資格取得を課す場合が多い。労災が起きないように、基本的な部分についてしっかりと訓練していただき、その上で、コミュニケーション能力の向上訓練に努めていただければと思う。

最終的には、コミュニケーション能力を発揮してお客様から料金をいただく、それが売り上げと顧客満足度に結びつき、給料への反映につながるという商いの基本的な部分も学んでほしい。

## ○福島県建設業協会

震災前から毎回お話しているが、この地域には、建築土木の専門学科の学校が無くなってしまっている。

元々は双葉農業高等学校（現：双葉翔陽高等学校）や相馬農業高等学校、原町工業高等学校（現：松栄高等学校）という学校があり、この地域の先輩たちは、ずっとこれらの学校で学び卒業してきた。それがここ20年来、テクノアカデミー浜さんの建築科があるおかげで、地元の建設業協会会員企業でも、毎年卒業生を採用させていただいていますし、関連産業のほうにも、採用させていただいている。

もう本当に唯一の蜘蛛のような話であるので、何とかどんな形でもいいから（建築科）を残していただきたいという大前提がある。

学生募集に苦勞されているとは思いますが、この地域だと常磐線で来ることができる。宮城県の南部であるとか、他地域であっても学生寮が存続する限りは、「ここに来れば資格を取得できて、就職もできますよ」という点を徹底的にアピールしていただければ、かなり需要はあるものと考えます。

これも毎回お話しているが、(建築科の主要科目が)木造建築であること。

この20年間でプレキャスト方式、ハウスメーカーでは工業組立て建築方式が主流になってきている。昔の宮大工のように数年後の木材の状態を念頭に置き、みずから木材を削るといった熟練の技術よりも、組立て技術が主流になっている。

今年(令和6年)4月以降、建設業及び運輸業従事者は働き方改革の5年間の猶予期間が切れ、完全週休2日制の導入と、残業時間の上限規制が設けられる。

このような状況下でこれから建設業をどうしていくか。それはICTとDX。

ドローンで測量し、そのデータを3次元解析するなど、もしかすると建築技術よりICTの技術者のほうが、建設を管理する会社には必要になる時代がもうそこまで来ている。必ずしも建築学科の学生だけでなく、制御やロボットを経験された学生であっても、建設産業に就職できるところまで来ている。

DX化を進めないと、産業自体に人が来ないことから、電気や制御関係を経験した学生であっても、建設産業界での採用枠はこれから必ず増えていくと考えてよい。

そうすると、「建築科」として運営を続けるよりも、「建設科」として測量やドローン操縦、3次元解析などのデジタル技術、コンクリートの使用などの土木的な技術を学んでいただくのもメリットがあると思う。

テクノアカデミー3校のすみ分けもあると思うが、建築に限って言えば、(木造建築主体の科目は)もう必要性がなくなっているような気がする。

連携の点では、建設業協会では2年前から各社新入社員研修を2週間程度、協会主催で復活させており、ゆくゆくは建設学院の再建を目標にしている。

研修の中では、メンテナスマネージャーの育成も行っている。将来的に公共施設や橋などのメンテナンスの必要性が言われており、点検作業やコンクリートのスキャン、非破壊検査を行うなど、機械の操縦が必要とされる。

福島ロボットテストフィールドには、ドローンを飛ばして橋梁の非破壊検査を行える場所もある。このような訓練もこれから必要とされてくると思うので、可能ならば、建築に限らず、建設産業科の括りでさまざまなことに取り組んでいただけると、就職をより受け入れやすくなる。

施設見学の際に見た騎馬武者のロボットについて。

たまたま本日の午前中、原町第一小学校の学校評議員として会合に参加し、その席学校側から「これまではコロナ禍のため思うように外出できなかったが、例えばテク

ノアカデミー浜や公共施設、図書館などへ子どもたちを探検として行かせたい」との話があった。

唯一の問題はバスの確保。バス移動については市から補助は出るが、市の施設に限定されるため、他の場所に行けないとのことだった。

もし、バス代を補助する制度があれば、テクノアカデミー浜に市内の子どもたちを連れてきて、学生たちと探検・交流していくことが可能になる。

原町第二中学校や原町第一小学校は、テクノアカデミー浜から近く、また、児童生徒数も多いことから、制度を活用していただけると考える。先生方のご理解とご協力をよろしく願う。

子どものときから職業体験をさせないと、なかなか地元の産業界に残らない。一度都会に行って楽しいことを覚えると、皆そこで定着してしまうことから、1人でも多く、子どもたちを育てていただければと思う。

#### ○株式会社ゆめサポート南相馬

ゆめサポート南相馬でサポートしている市や圏域の企業様について言うと、昨年までは人材不足を強調されていたが、今年に入ると、昨年夏以降の景気悪化を受け、人材不足が叫ばれなくなってきている。

地域の中での課題として、産業人材は不足しており、高齢化も進んでいる。

代替がきかない部分、継続的な部分については、テクノアカデミー浜の在職者訓練が数多くのメニューで進めており、オーダーメイド型の合同新入社員研修も実施していただき、非常に助かっている。

また、進出企業、新たなベンチャーの方々も、そろそろ新しい人を迎え入れる体制になるまで成熟してきたところもある。そのような企業の方のためにも、新入社員研修を支援していただきたい。

学卒者訓練生への配慮という部分では、他の委員の方からも発言があったように、基本的な安全・安心、業務上怪我をしない工夫をしっかりと続けていくことが非常に重要である。その上で、さまざまな経験をしていただくという意味では、今回整備した太陽光発電設備や軽量飛行機の取組などがあってもよい。

また、違う学科の学生同士で意見交換し合うことも非常に価値がある。

例えば大学だと、学科に関係なくサークル活動があり、ジャスサークルなど自身の専門性とは関係の無い知見を別のところから得られることがある。このような取組がテクノアカデミー浜でもできないかと感じている。入学生一人一人の満足度を高めるためにも、サークル活動を通して地元企業と一緒に結びつき、「試しにロボットを作

ってみましようか」的なものができればよいと考える。

このような内容であれば、地元の企業様も協力していただける可能性が高い。それで地元との密着度を高めていくこと、学科を超えた知見を身につけることがあってもよいと思っている。

○テクノアカデミー浜校長（座長）

今のお話について、本校にもクラブ活動はある。例えばバドミントンクラブ、秋田県で開催されたソーラーカー大会に出場したソーラーカー・EV部などがある。これは、クラブ活動の時間を使ってソーラーカーを製作している。

ただ、御指摘のように科を横断して組織化されたものは少なく、例えばモデルロケットを飛ばすマニファクチャーラボ部は、機械技術科学生のみで構成されていることから、校としても、何らかの仕掛けをしていく。

○株式会社ゆめサポート南相馬

昨冬、福島ロケットチャレンジ2023が開催されたが、あのような大会に学科関係なく参加できるようになれば面白くなる。

○テクノアカデミー浜校長（座長）

現状、機械技術科の学生のみであることから、興味のある学生は、学科関係なくクラブに参加できる雰囲気づくりが必要かと思う。

○株式会社ゆめサポート南相馬

例えば、モデルロケットの発射台の製作は、建築科が大活躍する。

○テクノアカデミー浜校長（座長）

御指摘のとおりと考える。

○福島県建設業協会

関連して、キッズニアには出展しているのか。

○テクノアカデミー浜校長（座長）

ものづくり体験コーナーを出展している。

○福島県建設業協会

そのような機会に、学科横断的に有志で出展することがあってもよい。

当協会でも、重機操作のシミュレーション体験コーナーを出展し、80名ほどの子どもたちに参加していただいた。また、高所作業車への試乗も行い、子どもよりも親が喜ぶ光景もあった。

子の職業を決める際に親の影響は大きいことから、少しでもものづくりに関心を持った子どもたちを増やしていく上で、キッズニアは非常に効果ある取組と考える。

○テクノアカデミー浜校長（座長）

各種イベント等への出展について、従来「問い合わせがあれば、極力参加します」というスタンスであったが、先日、監査のため来校された県議会議員から、「言われてから行くのではなく、こちら側から積極的に出向き、テクノアカデミー浜を売り込

むべき」との指摘があった。来年度以降は、本校側から売り込んでいきたい。

また、イノベ機構の依頼で、県内高校での出前事業に本校職員を派遣したり、小高産業技術高校にもEVレースの関係で本校職員を派遣している。ただ、これらも言われてから動いていることから、今後は、こちら側からどんどん売り込みたい。

#### ○福島県自動車整備振興会

2年間のカリキュラムは、相当量あるのか。

#### ○テクノアカデミー浜校長（座長）

授業時間は1400時間／年という法律上の縛りがあるため、必要な授業や訓練を行った上での対応となる。

一方、授業以外の取組は、学生の今後につながるもの。イベント参加という課題に対し、工程を踏んで実施することは勉強にもなることから、今後、積極的に取り入れていきたい。

#### ○原町商工会議所

昨日及び一昨日、東京で開催された日本商工会議所主催の会議に出席してきた。

会議では、内閣府で人口減少対策に取り組んでいる方の話を聞く機会があった。

話によれば、西暦2100年において、日本の人口を8,000万人に留めたい、このままいくともっと下がり、8,000万人に留めるのも大変とのこと。2100年は今から70数年後、私たちの孫の世代かその次の世代の話になるが、日本という国の存続にかかる、という非常に大きな問題である。

これらは1日2日で解決できるものではないという内容で、非常に危機感を覚えて昨日夕方帰ってきたところである。

併せて、我々の上部団体である日本商工会議所と東京商工会議所は、共同で「これからの労働政策に関する懇談会」を開催しており、今回中間レポートが出された。

少し読んでみたが、この中でも人がいない、人が取れない現実社会の中で、中小企業が本当に存続できるのか、また、新しい未来を切り拓いていくためにどうしていくかという内容となっている。

特に中小企業は、規模が小さくなれば余計にそのような影響も大きいと思うし、地方に来ればもっと影響があると思う。

人材不足を人の採用で補うことは、もう不可能であるということ。

レポートの内容を全部紹介しないが、まず三つ、最低限取り組まなければならないことがあるとしている。一つ目には省力化、二つ目には育成、三つ目には多様性。この三つに取り組まなければ、従業員が確保できないし、製品がつかれない、サービスが提供できないということ。

二つ目の育成について、レポートの中に「公共的職業訓練の積極活用」という項目がある。日本商工会議所や東京商工会議が提言するという事は、政府が行うという

ことになろうが、職業訓練校を十分に活用するという事。

それから、企業側でも、全国的に見て利用実績が横ばい状態で、それほど活発に利用されていない状況となっていることから、既存従業員のレベルアップ、スキルアップをしないといけないことが記載されている。

学校側には、訓練内容の質と量のさらなる充実と、地域中小企業の利便性向上、それから利用促進の取組を強化すべきとする記載となっている。

国や県については、教育訓練などに使う投資への助成、人材育成に対する幅広い支援、そのほかの支援を求める記載となっている。

これまでレポートを引用したが、このような面からも、公共的な職業訓練はこれから非常に重要度を増していくものと思われる。

原町商工会議所でも、テクノアカデミー浜主催のテクノセミナーについて、さまざまな会議等を通じて周知する協力ができるので、遠慮なく相談願いたい。

#### ○相馬商工会議所

相馬市においても、子どもたちが産業に関わるきっかけ、出会うチャンスを確保することが非常に大事と思う。我々も、相馬市子ども科学フェスティバルや、あきいち等の市民祭りにおける産業分野の展示にについて、積極的に参画している。

当会議所工業部会には150社程度が加盟し、現在、(株)アリーナの社長が中心となって動いていただいている。

工業部会では、進学等で市外・県外に出た方に戻ってきてもらうために、さまざまな活動に取り組んでおり、先に述べた相馬市子ども科学フェスティバルや市民祭り等にも出展している。

少し異色な取組としては、工業部会で相馬野馬追のお姫様をモチーフにしたマスコットキャラクターを製作したこと。現在、知的財産権の整理・確認等を行っているが、仮の名前はカラクリ姫(仮称)である。

小中学生向けに、このお姫様を印刷したクリアファイルを作成・配布し、「相馬の会社って面白いな」と思わせるきっかけを作り出したい。

会員企業各位は、人材不足の中、今いる社員が離れないよう懸命に努力している。

特に若い世代の社員に対しては非常に気を遣っている。例えば何か壁に突き当たった際のフォローや、がん検診など健康診断・福利厚生の実充など、明るい職場づくりに努めている社長さんが数多くいる。

先程コミュニケーションについて意見が出たが、今の若い世代は、こちら側から引き出さないと(意見や考えを)我々に打ち明けてこないとする企業が多い。

商工会議所として、国県の施策情報を会員企業へ周知していくことは大事だが、職



場環境向上の取組について、会員企業の取組事例などを定期的に情報発信していきたいと考えている。

#### ○小高産業技術高等学校

同じ南相馬市内にあって、産業人材を育成するという点で、(テクノアカデミー浜と) 同じ志を持って活動していると思う。

本校では、文科省の指定を受けてマイスターハイスクール事業を実施しており、本年度で3年目、最終年度を迎える。先月、ゆめはつとで最終報告会を開催した。手前味噌ではあるが、大変高い評価を国からいただくことができた。

事業の中では、6つの分野と5つの各種プログラムを設けており、詳細は割愛するが、そのうち再生可能エネルギー分野では、EVカートの製作に取り組んだ。

テクノアカデミー浜からは、産業実務科教員として本校へ講師として派遣いただき、指導助言をいただいた。そうしたこともあって、「相双EVレース大会」を今年初めて立ち上げた。大会では、テクノアカデミー浜の学生にも参加していただき、本校生徒たちは大きな刺激を受けてきた。非常に工夫に満ちたカートで、高校生の発想では難しいと思われるところがあり、また、ものづくりという点でも非常に好奇心をかき立てられたといった意見が出された。

航空宇宙分野についても、相双地域における航空宇宙関連企業との交流を深めるとともに、外部講師としてテクノアカデミー浜から職員を派遣していただき、モデルロケットの製作指導をいただいた。そのお陰もあって、福島そらびと育成研究会主催による「福島ロケットチャレンジ」大会にも出場することができた。本校教員も、日頃からテクノアカデミー浜と連携を取りながら生徒たちを指導してきた。

テクノアカデミー浜の支援は、本校にとって有益なものばかりである。特に今年は再生可能エネルギー分野や航空宇宙分野での取組は大成功を収めた。

今後もぜひ、さまざまな分野で小高産業技術高校学校とテクノアカデミー浜が連携できたらよいと思う。また、「相双EVレース大会」「福島ロケットチャレンジ」といったイベントへ参加し、生徒の知識・技術向上に資することとしたい。

このような学校同士の連携は、南相馬市をはじめとする地域振興に大きく寄与していくものと考えている。引き続き、よろしく願う。

#### ○南相馬市商工観光部商工労政課

施設見学では興味深く拝見させていただいた。個人的にとってもわくわくした。

学生募集が大変な状況とのことであり、市としても来年度(令和6年度)に向けて、

人材確保活動を強力に推し進めなければならないという思いがある。

一方で、小高産業技術高校や相馬農業高校の進学率が上昇している現実がある。

○小高産業技術高等学校

本校卒業生の進学率は、ちょうど5割。

○南相馬市商工観光部商工労政課

相馬農業高校でも、進学率は約3割。

生徒の数が少なくなってきたり、そして進学率が上がってきていると、高校卒業後市内で働く人材は限られてくる。

これまで市では企業誘致に努めてきたが、今では進出企業間での人材獲得競争が生じていることから、この状況を打開するため、来年度新規事業として、市内高校1年生を対象としたセミナーの実施を予定している。

具体的には、高校生に対し、素晴らしい取組をしている市内中小企業がどのような会社で、実際に何を作っているか、従業員はどのような労働条件で働いているかについて知ってもらうため、実際に現場を見ってもらう企業見学ツアーを予定している。

なお、企業見学ツアーといっても、大手企業へバスで乗り付けてぎゅーっと見学するのではなく、高校生を小さな班に分けて中小企業メインに見学させる仕組みを想定しており、現在、各高校の進路指導担当教員との間で、具体的な進め方を調整している。

先ほど「わくわくする」と述べたが、高校生も実際に見学して魅力を感じていただき、高校卒業後に就職あるいはテクノアカデミー浜進学を経て就職する流れができればよいと考えている。

そこで提案だが、見学対象企業の一つに、テクノアカデミー浜を加えてよいか。

○テクノアカデミー浜校長（座長）

ぜひ、よろしく願いしたい。

○南相馬市商工観光部商工労政課

引き続き、連携していきたいので、よろしく願う。

○相馬市産業部商工観光課

昨年11月4日に開催された相馬市子ども科学フェスティバルに出展いただき、感謝申し上げます。今年も開催予定なので、ぜひよろしく願う。

また、令和5年度卒業予定について、IHIやDDPスペシャリティ・プロダクツ・ジャパンへの内定獲得にも感謝申し上げます。

当市でも南相馬市と同様企業誘致に努めてきたが、雇用確保の課題が大きくなってきている。ある進出企業で3年後に操業開始予定のところがあるが、100名程度の採用が必要と言われている。卒業生の就職先として配慮願いたい。

雇用の確保は大企業だけでなく市内中小企業にも関わることから、4月以降、「広報そうま」内に特設コーナーを設け、毎月市内中小企業を紹介して就職先として目を向けていただけるようにするので、ぜひご覧いただきたい。

#### ○相双公共職業安定所

この場を借りて、管内の雇用失業情勢について説明させていただきたい。

令和5年12月時点における相双地域の有効求人倍率は1.69倍。これは、県内各地域で比較しても最も高い求人倍率となっており、仕事に対し求人が多い状況であることが、数字でも示されている。

ただ、復旧・復興関連事業の求人が増加した時期と比較すると、当時の有効求人倍率が2倍以上だったことを踏まえると、以前よりは落ち着てきたと言える。

令和5年12月時点における県内の有効求人倍率は1.35倍、全国平均は1.27倍であるように、この地域における求人は非常に多い。

これは、エフレイの進出や国県補助金の誘導による製造業を中心とした企業進出によるものである。以前のような復旧・復興関連事業での求人は減少しており、前年同月比で見ても、新規求人数自体は減少（R4.12月1,575名⇒R5.12月1,179名）している。

求職者については、登録者の半数以上が50歳以上であり、前年同月比で見ても、（就職先が決まらず）滞留している。

若い方でも、転職のためハローワークに足を運ばれる方がいる。また、数はまだまだ少ないが、移住のためこちらで就職先を求める方もいる。

高卒者については、毎年卒業生の2割程度が就職希望しており、このうち6～7割が県内企業就職者となっている。

一方、相双管内に限ると、管内企業へ就職する高卒者は6割前後という状況。

例年、県内就職割合が就職希望者の7割程度であるのに対し、相双所管内の就職割合は6割に留まっている

また、ハローワークでは、LINEを使用した情報発信に努めている。引き続き求職者を対象とした説明会を実施するなど、ハローワーク富岡及び相馬と連携しながら就職対策に取り組みたい。

併せて、ハローワークでは最近、求人申し込み前に、実際に求人元企業等の見学を希望される方が増えてきている。各学校では、地元企業との接点を深めるため、在学中にインターンシップなどの形で企業を訪問する取組事例があると聞く。今後はこのような取組が重要になっていくものと思う。

就職後の定着についても、各企業様で努力をされているところであるが、メンター制度のように、例えば身近にいる先輩・上司が状況を見ながら、新入社員に必要な指示助言を行う必要性を感じている。

実際、窓口に来られた求職者に話を聞くと、自己都合退職者の多くは人間関係の悩みであることが多かった。

地元企業に関心を持ってもらい、いかに就職に結びつけるかについて、ハローワーク相双としても努力していきたい。

#### ○相双地方振興局

テクノアカデミー浜では、就職率 100%という実績があるのに応募者が少ないという現状は、非常に残念に思う。

学校を知ってもらうため、3月には、管内出先機関の長会議をテクノアカデミー浜で開催する考えであり、県職員にテクノアカデミー浜の場所や、太陽光発電や風力発電といった再生可能エネルギーの取組内容などを知っていただく機会を作りたい。

また、キッズニアについて、昨年建設業界やテクノアカデミー浜から出展をいただいたところだが、来年度も開催したいと考えている。小中学生のうちから「管内にはこんな企業がありますよ」ということをアピールしながら、職業体験を行いたい。

先ほど、産業人材の不足に関し、高卒者の就職率の話があったが、相双管内で申し上げると、高卒就職者数は令和3年度 214名、令和4年度 199名、令和5年度は100%決まっていないが、就職希望者として 173名。高卒就職者は年々減少しており、また、相双公共職業安定所からの説明のとおり、就職者の管内就職割合が6割に留まっている。

このため振興局では、高卒就職者への対策はもとより、相双地域出身の大学者や相双出身で転職を検討している 20～30代の方を対象に、来年度、相双地域での就業体験を提供する事業の実施を計画している。

引き続き、産業人材育成の観点から協力していきたいので、よろしくお願いします。